

久保之正先生 の墓碑 大花里共同墓苑

上西だより

～上西校区集落支援員だより～

西之表市地域支援課
上西集落支援員
馬場 信一 編集
連絡先090-9579-3953
上西校区長責任発行

今年は久保之正先生の没後200年目に当たります。1808年に種子島に遠島され、1823年に亡くなるまでの16年間をこの地（※）で過ごしました。ここでどのような生き方をされたのか、節目にある今年、亡き先生を忍びつつ振り返ってみたいと思います。



高さ一メートル三十センチメートル

左面文字

文政六年？？？

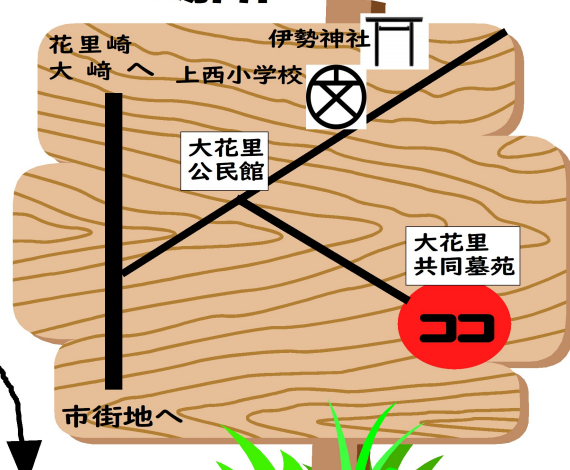
正面文字

禮穰院貞明？正？士

右面文字

久保平内？？門

場所



？？は、おそらく、いや確実に「左衛」であろう。久保平内左衛門。読みは「くぼ へいざえもん」

久保先生の亡骸は通常よりもかなり深く掘った後に埋葬されたといわれる。理由は、当時火葬ではなく土葬だったため食害（動物から掘り起こされ、食い散らされること）から防ぐためだと伝えられている。死後も先生を丁重（とむら）に吊りたいという住民の思いのあらわれである。

戒名は仏門に入った証で、死後に菩提寺の住職が授ける。「院」は身分の高い人に与えられるという。

地元の人たちを教える立場にあるからこそ自らの行いをきびしく律し、贅沢や甘えを厳に慎みました。



示現流の達人
（じげんりゅう）

示現流とは江戸時代後期に薩摩藩に伝わった古流剣術で最初の太刀で切りつける「先手必勝」の鋭い斬撃（ざんげき）が特徴である。



（昔の立派な教えをいくら聞いても口で唱えても、自分でやってみなければ何の役にもたないという意味）

いにしえの道を聞きても唱えてもわが行いにせずば甲斐なし

地元民に島津日新公（じつしんこう）いろは歌を
島津藩主忠良（ただよし）（日新公）が五年の歳月をかけて完成させた島津藩教育の精神を表す四十七首の歌。この歌が薩摩藩独特の土風と文化をもたらした。

この地（※）とは大花里・花里崎周辺を指します。昭和17年に当時の集落民が花里崎公民館敷地内に先生の石碑を建てたことから、先生は地元の人たちから敬愛され、親しまれていたことがわかります。取材は長野正育さんより協力をいただきました。